

科目名	日本経済史	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	堀川 祐里	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-340004	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	<p>日本の産業革命期から現代に至る経済の歴史を、特に労働に焦点を当て、ジェンダーの視点から考察する。本授業の目的は、受講生の歴史を学ぶことについての意義の理解を、年号や重要語句を覚えるといった受験勉強のようなものから、現代社会の問題を解決する方法であるという理解へと発展させることである。高校生までに得た日本史の知識をジェンダーの視点から相対化出来ることを目指してほしい。</p> <p>本授業の履修にあたっては、高校生までの日本史の知識があることが望ましいと言える。さらに、経済学の基礎知識を前提とした発展的水準科目のため、「日本経済論」もしくは「社会福祉論」のどちらか、ないし両方を履修済みでない場合、理解が難しい。前年度までに「日本経済論」、「社会福祉論」を履修していない場合には、以下の【予習】・【復習】に記載している内容以上の“量”・“質”の自己学習を必要とするため、自己学習の方法について速やかに担当教員に相談すること。</p> <p>※授業内で、数回、Webex等を用いた遠隔授業を実施する。具体的な日程は授業内で説明する。</p>				
学修到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、日本経済史の基礎的知識を身につける。 2、講義で取り扱うそれぞれの時期における労働環境の特徴について説明できるようになる。 3、日本経済についてジェンダー視点から自分の考えを述べるができるようになる。 				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	オリエンテーション：授業計画、成績評価、注意事項等に関する説明。
第2回	ジェンダーの視点から見た経済史
第3回	官営富岡製糸場と工女

第4回	産業革命と労働運動の高揚
第5回	工場法の成立と繊維産業の変遷
第6回	女性の高学歴化と「職業婦人」
第7回	戦時中の日本経済と社会政策の在り方①
第8回	戦時中の日本経済と社会政策の在り方②
第9回	戦前期の日本経済のまとめ ※本授業では、2～3名で1組をつくり、グループワークを実施する。
第10回	労働組合の歴史
第11回	戦後の労働状況と労働運動
第12回	高度経済成長期と「専業主婦」①
第13回	高度経済成長期と「専業主婦」②

第14回	国連女子差別撤廃条約の批准と男女雇用機会均等法の制定
第15回	まとめ：現代の日本経済を歴史的視点から考える
第16回	定期試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。新聞やニュース等で報道される日本経済に関する話題にアンテナを張り、情報収集をおこなうこと。
【復習】時間・内容	2時間。本講義を履修するにあたっては、授業後の復習を重要視する。授業内に行う小テストや課題をクリアできるよう、毎回の授業で扱った範囲についてはその都度復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しておくこと。講義は前回までの授業の理解を前提に進んでいく。そのため、前回学習した内容についてよく復習し、次の授業までに疑問を解決する（ないし、教員に質問をする準備をする）ことが、学習効果を上げることにつながる。

成績評価	
評価基準・方法	3種類の評価方法の総合評価であり、その内訳は、定期試験50%、小テスト30%、その他20%である。 ※定期試験は持込不可とする。 ※授業内小テストは、授業の理解度の確認のため持込可とし、「予告なし」で複数回行う。 ※その他として、小レポート、授業内でのリアクションペーパー、グループワーク等の課題を行う。
フィードバック方法	小テストに関しては、受講生の理解度に応じて授業内に解説を行う。また、授業内で課題を行った場合には、代表的な意見を取り上げて講評を行う。なお、個別の質問に対しても、適宜対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク

教科書/参考書	<p>教科書は用いず、毎回の授業で配布するレジュメ、資料、参考文献等に基づいて講義を進める。受講生には「メモ」をとることを習慣づけ、自分だけのノートを作成していくことを心がけてほしい。なお、ポータルサイトでの資料配布を行うため、授業の前にはポータルサイトを確認し、適宜資料の印刷を行っておくこと。 自己学習のための参考書としては、以下の文献を挙げる。</p> <p>金子貞吉（2005）『戦後日本経済の総点検』学文社。 久島典子・長野ひろ子・長志珠絵編（2015）『ジェンダーから見た日本史』大月書店。</p> <p>上記に挙げた文献のほか、参考書は授業内に適宜紹介する。</p>
受講上の留意点等	<p>授業に関する詳細や注意事項は初回の授業で説明するため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には、原則として第1回目の授業に出席すること。 とくに、経済学の基礎知識を前提とした発展的水準科目のため、「日本経済論」もしくは「社会福祉論」のどちらか、ないし両方を履修済みでない場合、理解が難しい。前年度までに「日本経済論」、「社会福祉論」を履修していない場合には、以下の【予習】・【復習】に記載している内容以上の“量”・“質”の自己学習を必要とするため、自己学習の方法について速やかに担当教員に相談すること。</p> <p>全15回の授業のうち複数回において、「予告なし」の小テストを行う。皆勤が原則であるため、出席自体は評価の対象とはならないが、授業内に実施する小テスト、その他の課題に積極的に取り組むことが必須である。「成績評価」に記しているように、定期試験だけを受験して満点を取っても、授業内で行う小テスト、その他の課題での得点がない場合は、単位が付与されないので注意すること。なお、各回の授業内容は受講生の理解を促進するために、順序を入れ替えることがある。</p> <p>最後に、授業中、他の受講生の迷惑になる行動については慎むこと。特に私語は厳禁とし、私語を行っている受講生には教員が退室を促すことがある。この講義は、授業全体を通して受講生が社会人として活躍する将来を展望して展開される。受講生には「大人」としての振る舞いを求める。</p> <p>※授業内で、数回、Webex等を用いた遠隔授業を実施する。具体的な日程は授業内で説明する。</p>
JABEE	